

# 大学間連携による教員養成の高度化支援システムの構築 ～教員養成ルネッサンス・HATOプロジェクト～

国立大学改革強化推進補助金（平成24年度選定事業）

1 / 3

## 事業の目的

本事業は、国立の大規模教員養成系単科大学である北海道教育大学（H）・愛知教育大学（A）・東京学芸大学（T）・大阪教育大学（O）が、教員養成教育が共通して抱える諸課題を協働して解決できる体制を整備するとともに、全国の教員養成系大学・学部等とのネットワーク化を図り、日本における教員養成の質保証と高度化を支援するシステムを構築することを旨とするものである。

## 事業の概要

4大学が共同して「教員養成開発連携機構」を設置するとともに、各大学に「教員養成開発連携センター」を開設し有機的に4大学が連携できる組織を構成した。4大学それぞれの強みを持ち寄り「A.教員養成の評価システムの構築」「B.教員養成における『ならでは』の大学教職員の研修開発」「C.教育政策への迅速な対応」「D.教育実習に対する課題への対応」「E.教員養成・研修における現代的課題への対応」という5つのテーマに対して、それぞれ3部門（IR部門、研修・交流支援部門、先導的実践プログラム部門）16プロジェクトを組織し事業を進めた。

## 事業実施校

（代表大学）  
東京学芸大学

（連携大学）  
北海道教育大学  
愛知教育大学  
大阪教育大学

## 主な成果目標及び達成指標

### 1) 教員養成の評価システムの構築 - 2) 教員養成における「ならでは」の大学教職員の研修開発

4大学連携による「新入生学習調査」「大学生学習調査」「卒業時調査」のパネル調査(4年)を実施し、「教員養成版ビッグデータセット」を構築し教学IR活動の基盤を形成。教学データの統合的活用方策の検討と成果の公表。教員養成IRコンソーシアム（仮称）の設置準備。教育学部志望者の減少、教員の社会的地位向上のために、仕事の魅力をこども・教員・学生から分析、教員養成の国際化を目指すSD、FD研修プログラム等の開発、教員養成相互支援ネットワークの構築

### 3) 教育政策への迅速な対応

調査や実践開発研究を通し、チーム学校を支える「教育支援」概念の研究と社会実装へのモデル提案、テキスト、教材等の講義支援ツールの開発、教育研究拠点の形成。小学校英語教育の指導力向上のためのオンライン協働研究・学修用プラットフォーム（CollaVOD）の開発。英語能力に応じた各種学習支援の実施や地域の英語教育発展への貢献などを基にした自律的な外国語学習支援モデルの構築。IB授業実践のできるグローバル人材育成を目指す教員養成プログラムの開発。プロフェッショナル型博士課程構想について検討と提言。

### 4) 教育実習に対する課題への対応

公立学校における教育実習指導及び教員研修向けのコンテンツの作成とその活用の推進。コンピューター上で実施し即時フィードバックが可能な「教育実習前CBT」の開発、全国の教員養成系大学・学部で教育実習前CBTが活用されることにより、教育実習とその後の学びを通して、多様な教育場面への対応ができる教員へと成長していくことを支援。

### 5) 教員養成・研修における現代的課題への対応

理科実験・ものづくりのできる教員の養成と育成ならびに現職教員の支援、放射線教育に関する教員養成プログラムの開発とその実践・普及、特別支援教育の専門課程の理論と実践力養成のための指導の在り方を調査検討。『幼稚園保育園ガイドブック』（英、中、ポ、西、タの計5言語）『小学校ガイドブック』（同5言語）の作成。へき地・複式・小規模校での実習プログラムモデルの構築と実習指導に活用する教材開発と出前授業の実施。「学習多様性」の実践を通して、小・中学校の教育環境サポートモデルを構築。①「演劇的手法によるコミュニケーション教育」を行うための教育プログラムの開発。安全教育用デジタル教材の開発・普及と教員研修を通じた人材育成、「セーフティプロモーションスクール（SPS）」認証活動の推進。

### 【主な達成指標】（\*（ ）内は目標値）

- ✓ 学会の設立 1件（1件）
- ✓ 教育支援課程の改組・設置 3件（3件）
- ✓ 新設した授業科目数 199件（28件）
- ✓ 教育プログラム等開発数 141件（57件）
- ✓ 研究会等開催参加者数 101件4,489人（96件4,256人）
- ✓ 学会・教育委員会、学校現場等成果公表数 557件（135件）
- ✓ 論文等発表件数 59件（34件）
- ✓ 開発授業実施数 107件7,291人（63件7,184人）
- ✓ テキスト教材開発数 41件
- ✓ Webコンテンツ開発数 123件
- ✓ その他 26件（定性的な成果、システムの開発、データセットの構築と教学改善、CBT開発・試行、4大学間でのカリキュラムの標準化の観点の検討と成果にもとづくカリキュラム改善、スプレッド方式とクラスパイラルプロセスのカリキュラム開発と実践）

### 実績・成果①

#### 教育実習前CBT（Computer Based Testing）開発

教育実習前CBTにおいては、教育実習前の時点における学びの一定レベルを確保するための一方策として、教育実習に臨む学生の「望ましい状態」を想定し、生徒指導、学級経営及び危機管理等などの基礎的な知識をパソコン画面に表示される内容に従って答えるものである。

また、テキスト教材1本（「ハンドブック」）も併せて開発し、教育実習に向けた意欲の向上や意識付けの促進や、自主学習の習慣づけなどを図った。

平成27～29年度において、北海道教育大学にて3回、愛知教育大学、東京学芸大学及び大阪教育大学において各1回、計6回の実施を行った。

今後は、全国の教員養成系大学・学部を活用を広げるため、「教育実習前CBT」の概要及びデモ版を作成し、北海道教育大学のホームページ上(<http://www2.hokkyodai.ac.jp/CBT/html/>)にすでに公開している。



### 実績・成果②

#### 教員養成「ならでは」の大学教職員の研修開発



「教員養成に携わる教職員の専門性開発に向けた力量の構造化（32項目＝8つの力と下位各4項目）」を作成。その力量向上に資する「教員養成ならではの教職員PD（Professional Development）講座」（全8講座）を開発。平成28年度後半からは研修の日常化と技能面の向上を視野にいゆる授業公開・授業参観に相当する「学内教員の授業を活用したPDプログラム」も開始。この二つの能力開発の活動を総称して「教員養成ならではの教職員PDプログラム」と呼び、HATO-PDパッケージとしてパンフレットとともに、各講座のスライド・映像・事前事後セルフチェック・確認テストをウェブ上に公開。平成29年度で318名の教職員が利用している。また、年1回は4大学がそれぞれ地域の拠点としてPD講座を開催し、地域の教職課程の教職員に「教員養成ならではの」研修機会を提供。

### 実績・成果③

#### 「チーム学校」時代の教員と教育支援職養成

チームアプローチ時代の学校の教員と教育支援職の養成を支える講義科目の開発と実践、並びにカリキュラムパッケージの開発を通じた講義支援ツールの汎用化を図り、webで公開。



特に我が国で初めての「チームアプローチ力の育成」に関わるテキストの刊行（「教育支援とチームアプローチ」書誌クラルテ、2016）と、そうした教育研究活動を支える全国規模でのネットワークの整備として教員養成・教育支援職養成の新しい学問分野を創設した「日本教育支援協働学会（2017年度・147名）」は、多くの教育者養成に携わる大学教員・学校教員・地域指導者が参加して、プロジェクト成果を礎に設立された。



### 今後の予定・展望

取組の成果は、各大学に継続して設置された「教員養成開発連携センター」を中心に、調査研究や実践モデルなどの「研究教育情報の提供」、教材としてのテキストや動画さらには出前講義などの「研究教育資源の提供」、参加型のネットワークや構築された課題解決のための仕組みなどの「研究教育システムの提供」の3つのタイプにより、4大学が連携して、今後、教員養成を行う大学や学部、さらには教育現場からの問い合わせに応じる事や、4大学が協働して取組をさらに進める事により、自大学を含め利活用が広がるように普及・発展させることに取り組んでいる。

# 大学間連携による教員養成の高度化支援システムの構築 ～教員養成ルネッサンス・HATOプロジェクト～

